

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 新年を迎えて

みなさん、新年明けましておめでとうございます。まず、みなさんのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

市職員も一同、公僕としての自覚を一段と深め、市民サービスの更なる向上に努力する決意でおりますので、どうぞよろしく願いいたします。

■ 社会資本の整備に向けて

合併のご褒美ともいべき合併特例債という有利な財源(事業費の95%につき起債可能。毎年の償還額の70%を国が負担)がありながら、本市では当初必要な5%の財源の準備ができず、合併特例債事業の着手が遅れていましたが、財政力の改善(財政健全化)につれて、現在、本格的な取組みが進んでいます。

全小中学校の耐震化、厚陽小中学校の一体化、ごみ処理場・市民病院・山陽消防署の各新設、厚狭地区・埴生地区の各公共施設の再編整備など、目白押しです。もう数年もすれば、県事業である厚狭川河川整備や新有帆川大橋(仮称)も完成し、街の景観も随分と変わってくることでしょう。

ちなみに、合併特例債といっても借金です。これだけの事業を手掛ければ財政指標の悪化が懸念されますが、財政課の見通しでは、実質公債費比率(現在16.1%)も17%台にとどまりそうです。

■ モジュール授業は続いています

「まだ、本市のモジュール授業(学校での生活改善・学力向上事業)は続いていますか。」対話の日でよく聞かれた質問です。教育委員会によると、まだ続いているどころか、モジュール授業の先進地として、各地からの視察が相次いでいるそうです。最近も、県下の某市議会の視察があったとか。教育長への講演依頼も少なくないそうです。

■ ヒューマンフェスタで学んだこと

12月15日、市民館文化ホールで「ヒューマンフェスタさんようおのだ～人権を考える集い2012～」を開催し、今回は、筑波大学の土井隆義教授(犯罪社会学専攻)に昨今の「いじめ問題」について講演をお願いしました。

現在のいじめは、同じタイプの生徒が作るグループ内で、ちょっとしたきっかけで起きることが多く、加害者にも被害者にもなり得ること。背景として、社会の枠組みや規範が薄れて友人選択の自由が広がったこと。反面、選択されないことへの不安が生じ、他人からどう思われるかが異常に気になるといった状況が起きている。対策としては、私たち大人(指導者)が「もっと仲良くしては」などと同調圧力をかけるのではなく、人間関係の軸足を増やしていき、少数の友人に拘束されない心の開放感を持たせることが必要との内容でした。「今、友達作りが苦手でも、全く気にする必要はないのです。」と助言するよう指導されたように感じました。